

Nano Banana 2.1 と GPT Image 2.5 の比較

— 知財業務での使い分け —

2026 年 10 月 11 日時点

Claude Opus 5.5

本書の表記 文中の上付き番号 [n] は巻末「参考文献」の番号に対応する。【分析】と付した記述や「（分析）」「（推論）」は筆者の推論であり、事実として確認したものではない。「未検証」「未確認」は一次ソースで確認できていない事項を示す。

要旨

両モデルとも実在するが、2026 年 10 月に公開されたのは Nano Banana 2.1 (Google、10 月 6 日) だけである^[1-3]。GPT Image 2.5 (OpenAI) は 9 月 8 日の公開であり^[4]、「10 月公開」という前提はこちらには当てはまらない。

- ・ **性能**：第三者評価では GPT Image 2.5 が上位にある。Arena の暫定値では約 50~100 ポイント上回る^[5]。ただし Nano Banana 2.1 は公開直後で票数が少なく、順位は変わり得る。
- ・ **価格**：1K 画像の単価は Nano Banana 2.1 が \$0.0336^[6]。GPT Image 2.5 は品質設定によって 1024×1024 で約 \$0.006~\$0.21 である^[7,8]。どちらが割安かは用途で変わる。
- ・ **知財業務**：経営層向け資料、インフォグラフィック、技術説明図のたたき台なら両者とも実用的である。特許図面・意匠図面の清書、ロゴの最終案、未公開発明の無償プランへの入力は避けるべきである（分析）。
- ・ **規約**：OpenAI は「出力の改変」と「商標としての商業的使用」を知財補償の対象外と明記している^[9]。Google も同種の除外を設けている（Workspace 等の補償条項の文言による。Cloud 版の原文は未検証）^[10]。補償は「素のままの出力をそのまま使う場面の最後の安全網」と位置づけるべきである（分析）。

1. 前提の検証

1-1. 確認できた事実

項目	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5
実在	確認済み	確認済み

項目	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5
提供元	Google (Google DeepMind)	OpenAI
正式名称・ID	Gemini Nano Banana 2.1 モデル ID : gemini-nano-banana-2.1 ^[1]	ChatGPT Images 2.5 (アプリ) API : gpt-image-2.5-flare/gpt-image-2.5-sunburst (スナップショット -2026-09-08) ^[4,11,12]
公開日 (米国)	2026 年 10 月 6 日 (火)。モデルカードも同日公開 ^[2,3]	2026 年 9 月 8 日 (火) ^[4]
公開日 (日本)	10 月 7 日 (推定。発表時刻は未確認)	9 月 9 日早朝 (推定。開発者フォーラムの告知が 9 月 8 日 21:00 UTC) ^[13]
ベースモデル	Gemini 3.6 Flash (知識カットオフは 2026 年 3 月。一部領域は 2025 年 1 月までとの注記あり) ^[2,3]	非公開
提供形態	Gemini アプリ、検索の AI モード、Google AI Studio、Gemini API、Google Ads、Flow、Stitch ^[3] Gemini Enterprise Agent Platform (旧 Vertex AI) での GA 提供は調査段階の取得情報で、本書では原文未確認	ChatGPT・ChatGPT Work・Codex の全ティア (Free を含むかは公式ブログに明記なし) ^[4] Image API、Responses API の画像生成ツール ^[12]

注 1 発表直前には「2.1 はまだ未発表で、Flow にラベルが見えているだけ」とする二次記事が出回っていた^[14]。検索結果には古い情報が混在するので注意を要する。

注 2 Google 公式ブログ (blog.google) の発表記事は本書では確認できていない (未検証)。リリースの確認元を Google の API リリースノートとする報道がある^[15]。一次ソースとして確認できたのは API ドキュメントと DeepMind のモデルカードである。

1-2. 直前世代からの変更点

項目	Nano Banana 2 → 2.1	GPT Image 2 → 2.5
前世代	Nano Banana 2 (Gemini 3.1 Flash Image、2026 年 2 月 26 日公開) ^[16] 。上位版の Nano Banana Pro (Gemini 3 Pro Image) は継続	GPT Image 2 (2026 年 4 月 21 日、ChatGPT Images 2.0)。系譜は 1 (2025 年 4 月) → 1-mini (2025 年 10 月) → 1.5 (2025 年 12 月) → 2 ^[17]

項目	Nano Banana 2 → 2.1	GPT Image 2 → 2.5
主な改善 (公式)	ビジュアルデザイン、マスク指定の部分編集、被写体の一貫性、文字描画、インフォグラフィックの精度 ^[2] 。極端な縦横比 (1:4～8:1) を 2K/4K で出力した際のタイル状の乱れを修正 ^[1]	細部と光の自然さ、参照写真の被写体保持、精密な部分編集、複数ターンの一貫性、透過背景。ChatGPT での待ち時間を最大 50%短縮 ^[4]
削除・変更	512px (0.5K) 出力に非対応 ^[18] 。画像出力単価を \$60 → \$30/100 万トークンに半減、入力単価は \$1.50 ^[8,15,19]	API を 2 モデルに分割 (Flare=標準・低レイテンシ、Sunburst=精密・低速) ^[4] 。品質段階に xhigh・max を追加 ^[11,12]
新しい UI 機能	(主にモデル側の改善)	Sketch (手描きの下絵を参照に使う)、テンプレート、画像へのコメントによる編集、プロンプト共有 ^[4]
前世代の扱い	Nano Banana 2 (gemini-3.1-flash-image) は非推奨。当初示された「10 月 29 日」の停止日は削除され、現在は停止日未発表 ^[15]	GPT Image 2 は引き続き利用可能 ^[20]

2. 基本仕様の比較

項目	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5 (Flare/Sunburst)
最大解像度	1K/2K/4K (既定は 1K) ^[1]	最大 3840×2160 ^[5] (二次情報)
アスペクト比	1:4、4:1、1:8、8:1 などの極端な比率に対応 ^[1]	1024×1024～3840×2160 のプリセットとカスタム指定 ^[5] (二次情報)
速度	絶対値は非公開	Flare は「GPT-Image-2 比で 50%低レイテンシ」、Sunburst は「生成時間が長め」(公式) ^[4] 。絶対値は非公開
入力	テキスト (文書を含む)・画像。文脈は最大 100 万トークンとモデルカードは記載 ^[3]	テキスト・画像
出力	画像とテキスト ^[3]	画像 (PNG/JPEG/WebP)。透過背景に対応 ^[4]
複数画像入力	最大 14 枚 (人物最大 4 体、物体最大 10 個の同一性を保持) ^[1]	編集エンドポイントで最大 16 枚 ^[5] (二次情報。OpenAI 公式では未検証)
部分編集	マスク/手描き (ink) 指定による編集 ^[2]	指示した要素だけを変える精密編集、コメント指定、Sketch ^[4]
同一性の保持	公式 Elo: 単一キャラクター1028、複数キャラクター1106、製品 1024 ^[2,3]	参照写真の被写体保持を主要な改善点として強調 (数値なし) ^[4]

項目	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5 (Flare/Sunburst)
画像内の文字	多言語のローカライズ文字描画を想定用途に掲げる。一方で、小さい文字（特に 1K）と長文は苦手と公式に明記 ^[2,3]	短い文字の正確さが向上したとの評価（二次情報） ^[21]
検索グラウンディング	あり（Google Web 検索・画像検索。画像検索グラウンディングは 2.1 と 3.1 Flash Image のみ） ^[1,18]	画像モデル単体での対応は公式文書で未確認
推論の深さ	Thinking : minimal/medium（既定）/high ^[1]	品質段階 : low/medium/high/xhigh/max ^[12]
トークン上限	API ページは入力 131,072/出力 32,768 ^[1] 。 モデルカードは最大 100 万トークン、実際には 65,536 超で拒否されたとの報告もあり、情報源により食い違う ^[3,22]	—

注 第三者の生成秒数を比較する記事もあるが、同記事は数値を例示値と明記しており、実測値とは言えない^[23]。

【分析】大量の文書や参照画像を読み込ませて図解させる用途は Nano Banana 2.1 が向く。長い文脈と検索グラウンディングを使えるためである。既存画像の一部だけを差し替える、部品写真を保ったまま背景を変える、といった編集の作り込みは GPT Image 2.5 (Sunburst) が強いとみられる。

3. 性能評価

3-1. 公式ベンチマーク（自社評価のため参考値）

- ・ **Nano Banana 2.1**（モデルカード、Thinking 有効時）：総合の好み 1050（Nano Banana 2 は 990、Pro は 935）。インフォグラフィックの事実正確性 0.521（2 は 0.179、Pro は 0.265）。一般編集 1026、マスク/ink 編集 1049^[2,3]。比較対象は Google の自社モデルだけである^[6]。
- ・ **GPT Image 2.5**：公式ブログに数値ベンチマークはない。主張は品質向上と待ち時間短縮という定性的なものにとどまり、顧客の声として Manus、Adobe、Higgsfield、Runway のコメントを掲載している^[4]。

3-2. 第三者リーダーボード

評価	GPT Image 2.5 Sunburst	GPT Image 2.5 Flare	Nano Banana 2.1
Arena Text-to-Image（10 月 6 日、暫定） ^[5]	1425（1 位）	1398（2 位）	1328（発表時 5 位→翌日 6 位）

評価	GPT Image 2.5 Sunburst	GPT Image 2.5 Flare	Nano Banana 2.1
Arena Image Edit ^[5]	1524 (1 位)	1481 (2 位)	1428 (6 位)
Arena Multi-Image Edit ^[5]	1527	1476	1431 (4 位)
Artificial Analysis Text-to-Image ^[23,24]	1198 (max、1 位)	1191 (max、2 位)	1160±10 (4 位) ※未検証
BudgetPixel Arena (10 月 11 日) ^[25]	1607 (2 位)	1616 (1 位)	1555 (4 位、556 票)

注 Artificial Analysis の Nano Banana 2.1 の値は調査段階で同リーダーボードから取得したもので、本書作成時には確認できていない。10 月 6 日時点では Nano Banana 2.1 は未採点だった^[8]。

【分析】Arena では GPT Image 2.5 が約 50~100 ポイント上回る。ただし Nano Banana 2.1 は票数が少なく (Arena Text-to-Image で 5,310 票、Sunburst は 17,752 票) ^[5]、順位は変わり得る。Google の「Pro を上回った」という主張は自社モデル同士の比較であり、他社との優劣の根拠にはならない。

3-3. 評判 (長所・短所)

- ・ **Nano Banana 2.1** : 最大の利点は価格である^[19,26]。編集と被写体の一貫性の改善も評価されている^[27]。短所として、公式モデルカード自身が小さい文字のぼやけ、長文、左右の取り違い、3D 推論と事実性の限界、同一性の不完全さを挙げている^[2,3]。実務では Pro の方がまだ見栄えが良いとの評価もある^[28]。
- ・ **GPT Image 2.5** : 編集の精度、変えるべきでない部分の保持、速度が顧客の声で評価されている^[4]。短所として、絶対的な待ち時間や ChatGPT のプラン別生成上限が非公表であること、単色背景でまだ乱れが出るとの開発者フォーラムの報告がある^[13]。

4. 価格・利用条件

項目	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5
料金体系 (100 万トークンあたり)	画像出力 \$30、入力 \$1.50、テキスト・思考出力 \$7.50 ^[15]	テキスト入力 \$5、画像入力 \$8 (キャッシュ時 \$2)、画像出力 \$30。Flare と Sunburst は同額 ^[8,12]
1 枚あたりの目安	1K \$0.0336、2K \$0.0504、4K \$0.113 ^[6] 4K は出力トークン数の改定 (2,520→3,780) を反映した値で、Batch では \$0.0567 ^[15]	1024×1024 : low 約\$0.006、high 約\$0.053、max 約\$0.21。3840×2160 の high で約 \$0.10 ^[7,8] (換算値)
バッチ処理	対応 (標準の半額) ^[1,15]	対応 (公式 Batch ガイドに記載) ^[29] 。公開当日は非対応との報告もあった ^[13]

項目	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5
検索グラウンディング	Gemini 3.x 共通で月 5,000 リクエストまで無料、超過分は 1,000 リクエストあたり \$14 ^[15]	—
個人向け	検索の AI モード、Gemini アプリで利用可 ^[3] 。プラン別上限は未公表	ChatGPT の全ティアで利用可 (Free を含むかは明記なし) ^[4] 。プラン別上限は未公表
開発者向け無料枠	なし (Google がそう記載していると報じられている。一次ソースは未確認) ^[15]	なし (従量課金)

【分析】GPT Image 2.5 を low/medium で使えば Nano Banana 2.1 より安い。high 以上や 4K を多く出す場合は Nano Banana 2.1 が安くなる傾向にある。社内で比較する際は「1 枚あたり」ではなく「採用された 1 枚あたり」のコストで見るのがよい。

5. 安全性・来歴表示

項目	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5
不可視の透かし	SynthID (生成画像すべてに付与) ^[18]	不可視の透かしあり。システムカードによれば Google DeepMind の SynthID を採用 ^[30]
C2PA	Cloud 側のモデルページで「Supported」とされるが、既定で有効か、Developer API 経由の出力に付くかは未検証。前世代 (Nano Banana 2) での SynthID・C2PA 付与を解説する記事がある ^[31]	C2PA メタデータを継続して付与 ^[30]
目に見える透かし	公式文書に記載なし (未確認)	公式文書に記載なし (未確認)
実在人物	人物の生成には対応。検索グラウンディングで得た実在人物の画像は使えないとの情報があるが、本書では原文未確認	本人の明示的な同意と必要な権利なしに肖像を再現することを禁止 (Service Terms § 6) ^[9]
著名キャラクター・ロゴ	利用ポリシーに従う。モデル固有の記載は未確認	システムカードに記載なし (未確認)

【分析】両社とも SynthID を使うため、検出の仕組みはほぼ共通である。ただし SynthID も C2PA も、スクリーンショットや再生成で失われることがある。社外に出す資料では、来歴表示に頼らず自社ルールで「AI 生成」と明記するのが確実である。

6. 権利・規約（企業利用で最重要）

項目	Google (Nano Banana 2.1)	OpenAI (GPT Image 2.5)
生成物の権利	Google は出力の所有権を主張せず、生成コンテンツの利用には利用者が責任を負う ^[32,33]	出力の権利は利用者に帰属すると一般に解されている（規約本文の再確認は未実施） ^[34]
商用利用	可能（規約・利用ポリシーの範囲内）	可能（同左）
入力データの学習利用	無償枠（AI Studio、API の無償枠）は製品改善に使われ、人による確認もあり得る。有償では改善に使わない。不正利用の監視のためログを一定期間保存。検索グラウンディング利用時は 30 日保存。データ保持ゼロが必要なら Agent Platform を使う ^[32,35]	API・エンタープライズでは同意なく開発・改善に使わない（Services Agreement § 4.2、二次資料）。不正利用の監視のため最大 30 日保存（例外あり）。個人向け ChatGPT はオプトアウトしない限り学習に使われ得る ^[34,36]
知財補償	Google Cloud の補償対象に「Vertex AI（現 Agent Platform）で GA 版 Gemini を使う場合」が含まれる（有償利用のみ）。学習データに関する補償もあると説明している ^[37,38] Nano Banana 2.1 は GA なので対象と解されるが、名指しの記載はない（推論）。Gemini Developer API と AI Studio は対象外	API 顧客（§ 1）と Enterprise 顧客（§ 3(b)。Enterprise、Edu、Healthcare）に、出力が第三者の知財を侵害するとの請求を補償 ^[9] Business は § 3(b) の文言に明示がなく、対象外と読める（推論。契約で要確認）。Beta 機能は対象外（§ 2） ^[9]
主な補償除外	侵害を知っていた／知り得た場合、フィルタ等の回避、権利者から通知を受けた後の継続使用、商標の商業的使用、出力を改変した場合（「unmodified」が条件）。いずれも Workspace 等の補償条項の文言で、Cloud 版の原文は未検証 ^[10,39]	侵害を知っていた／知るべきだった場合、安全機能の無効化・不使用、出力の改変や他製品との組み合わせ、入力の特権がない場合、商取引での利用に基づく商標等の請求、サードパーティ由来のコンテンツ ^[9]

【分析】両社とも「出力の改変」と「商標としての商業的使用」を補償から除外している。そのため、ロゴ・商標案の作成や、AI 出力を加工した図面の作成は、補償で守られる範囲から外れやすい。知財部門は「補償があるから安全」と考えず、補償を「素のままの出力をそのまま使う場面での最後の安全網」と位置づけるべきである。

7. 知財業務での活用比較

評価：◎＝実用的、○＝条件付きで有用、△＝補助に限る、×＝非推奨（いずれも筆者の評価）

業務	Nano Banana 2.1	GPT Image 2.5	主な限界・リスク
特許図面（線図・断面図・ブロック図）	△	△	ラスター画像しか出せず、ベクター形式には非対応。寸法・符号・引出線の正確さは保証されない。左右の取り違いや 3D 推論の弱さは公式も認めている ^[2] 。特許庁の図面様式（黒色の鮮明な線、原則として着色不可、符号の付け方など）に合わせるには CAD 等での描き直しが必要
フローチャート・ブロック図のたたき台	○	○	概念図には使える。正式な図は Mermaid 等のコードや Visio で作る方が確実（分析）
発明提案書・発明発掘・技術説明	○	◎	発明者の手描き図の清書には Sketch 機能が使える ^[4] 。文書を読み込ませて図解を起こす用途は Nano Banana 2.1 が向く。未公開情報を入力するため契約環境が前提
IP ランドスケープ・経営層向けインフォグラフィック	◎	○～◎	Nano Banana 2.1 はインフォグラフィックの事実正確性が公式評価で 0.521 と自社比較で最も高く ^[2] 、検索グラウンディングも使える。ただし 0.521 は「約半分为正確」という水準であり、数値・社名・グラフは人が全件確認する必要がある
日本語テキストの正確さ	○	○	両者とも多言語に対応するが、小さい文字・長文・専門用語は崩れやすい ^[2] 。日本語は図の中で生成させず、PowerPoint 等で後から重ねるのが安全（分析）
意匠出願の構想検討	△	△	第 8 章 8-2 を参照。AI の出力をそのまま出願図面に使うのは避ける
商標・ロゴ案	△	△	既存の商標・著作物に似るリスクがある。両社とも商標の商業的使用を補償の対象外としている ^[9,10] 。発想出しに限り、J-PlatPat 等での調査と専門家の判断が必須
他社製品・先行技術の可視化、侵害説明資料	△	○	編集の精密さは GPT Image 2.5 が上とみられる。ただし AI による誇張や事実と異なる描写は証拠価値を損なう。原図・公報の図を正とし、AI は注釈やレイアウトの補助にとどめる（分析）
未公開発明の入力	有償 API／Agent Platform のみ○	API／Enterprise のみ○	Google の無償枠や個人向け ChatGPT への入力は禁止すべきである ^[32,36] 。検索グラウンディングを使うと入力内容が 30 日保存される点にも注意 ^[35]

8. 法的論点の最新動向（日本・米国）

8-1. 著作権

- ・文化庁「AI と著作権に関する考え方について」（2024 年 3 月）：AI 生成物に著作物性が認められるかは人の「創作的寄与」の有無で判断し、侵害の成否は通常の著作物と同じく類似性と依拠性で判断する、という整理である^[40]。本書では原文を再確認しておらず、その後の改訂の有無は未検証である。
- ・プリンシプル・コード：正式名称は「生成 AI の適切な利活用等に向けた知的財産の保護及び透明性に関するプリンシプル・コード」。知的財産戦略本部が 2026 年 8 月 25 日に公表した。法的拘束力や罰則はなく、コンプライ・オア・エクスプレイン方式をとる。対象は生成 AI の開発者・提供者で、日本向けにサービスを提供する海外事業者も含まれる。原則は①概要開示、②権利者からの照会への回答、③AI 利用者からの照会への回答の 3 つである。届出は 2026 年 10 月 26 日に始まり、内閣府知的財産戦略推進事務局が扱うとされる^[41]。

【分析】AI を使うだけの一般企業に直接の義務は課されない。ただし Google と OpenAI が届出・開示するかどうかは、ベンダー選定の材料になる。両社の届出状況は未確認である。

- ・米国：連邦最高裁は 2026 年 3 月 2 日、Thaler v. Perlmutter の上告を受理しなかった^[42,43]。これにより、人間が著作者でない作品には著作権がないとした D.C. 巡回区控訴裁判所の判決（2025 年 3 月 18 日）が確定した。人がどこまで関与すれば著作権が認められるかの基準は示されていない。著作権局は、AI が表現要素を決めた画像部分を登録対象から除外する運用をとっている^[42]。

8-2. 意匠

- ・現行の日本法：創作者は自然人でなければならない。AI を道具として使い、人が実質的に創作に関わっていれば保護され得る一方、AI 単独の創作物は登録できないと解されている^[44-46]。
- ・特許庁の検討：特許庁は 2024 年 11 月、生成 AI やメタバースを踏まえた制度の検討方針を示し、2026 年の意匠法改正を目指すとして報じられた^[47]。第 16 回意匠制度小委員会（2024 年 12 月 6 日）の配布資料は、第三者が既存デザインをもとに生成 AI で大量のデザインを生成・公開すると、既存デザインの創作者によるモデルチェンジ後の出願が新規性を失うおそれがあると指摘した。生成 AI で作成・公開されたデザインが引用意匠になり得るかも論点に挙げている^[44]。その後、同小委員会は(a)意匠該当性、(b)創作者、(c)引用意匠適格性、(d)新規性喪失の例外を優先的に検討するとして（第 20 回、2025 年 6 月 30 日）^[48]。

- ・ **現状**：2026 年 4 月時点の解説では「検討・議論中（正式施行時期は未定）」とされている^[46]。その後の法案提出・成立の有無は本書では未確認である。

【分析】自社が AI で大量に生成・公開したデザイン案は、自社にとっての公知意匠になり得る。社外へ出す前の出願検討、AI 生成案の社内限定管理、人の関与の記録が重要である。米国でも、AI 生成デザインの大量公開が先行技術として新規性判断を厳しくするとの議論がある^[49]。

8-3. 商標

2025 年 6 月 13 日の第 12 回商標制度小委員会で、生成 AI で作成した文字・図形も、人（自然人・法人）が出願する限り現行制度で登録し得るという方針が確認されたと解説されている（二次情報）^[50]。ただし、登録できるかどうかと、他人の商標・著作物との抵触は別の問題である。

8-4. 特許（発明者）

日米とも、発明者は自然人に限られる^[49,51]。

【分析】AI で作った図面は「表現」を補助するものにすぎず、発明の内容と発明者の認定には影響しない、と整理しておくべきである。

9. 社内導入の推奨

本章は筆者の推奨（分析）である。

9-1. 使い分け

1. **経営層向け資料・IP ランドスケープの図解** → Nano Banana 2.1（Agent Platform 経由の有償利用）。安価でインフォグラフィックに強く、検索で事実を補える。Google Cloud 経由なら補償の対象になる余地がある。
2. **発明者のラフ図の清書、既存画像の精密な編集、侵害説明資料のレイアウト** → GPT Image 2.5 Sunburst（API、または ChatGPT Enterprise）。量産する場合は Flare を使う。
3. **特許図面・意匠図面の清書** → どちらも使わない。CAD やドローツールで人が作成し、AI で作るのは構図のたたき台までとする。
4. **ロゴ・商標** → 発想出しに限る。採用候補は必ず商標調査と著作権上の類似性チェックにかける。

9-2. ガバナンス

- ・ **契約環境の限定**：Google は有償 API、または Agent Platform（データ保持ゼロが必要な場合）に限る。OpenAI は API か Enterprise に限る。ChatGPT Business は補償の対象外と読めるため、法務の確認が必要である^[9]。無償枠と個人アカウントは禁止する。
- ・ **情報の分類**：出願前の発明、営業秘密、他社から受け取った秘密情報は原則として入力を禁止する。例外は承認制にして利用ログを残す。
- ・ **記録**：プロンプト、入力、出力、人による修正内容を保存する。著作権・意匠の創作者性の立証、補償を請求する際の要件確認、プリンシプル・コードに基づく照会への対応に役立つ。
- ・ **表示**：社外に出す資料には AI 生成である旨を明記し、SynthID や C2PA の情報を削除しない。
- ・ **定期的な見直し**：モデルの非推奨化・停止（Nano Banana 2 の停止日は現在未発表）^[15]、規約改定（OpenAI の Service Terms は 2026 年 9 月 29 日更新）^[9]、意匠法改正の動き^[46]を四半期ごとに確認する。

9-3. プロンプトのコツ

- ・ **文字は AI に描かせない**：「ラベル位置に空白の四角を置く」と指示し、日本語は後から重ねる。
- ・ **図の種類と制約を明示する**：例として「白背景、黒の線のみ、陰影なし、符号用の引出線を 10 本、等角図」のように指定する。
- ・ **Nano Banana 2.1**：Thinking は high、解像度は 2K 以上を指定する。1K では小さい文字が崩れやすいと公式が認めている^[2]。最新の事実が必要なら検索グラウンディングを有効にするが、入力が 30 日保存される点に注意する^[35]。
- ・ **GPT Image 2.5**：変える点と「変えない点」を両方書く。複数ターンで編集する場合は、1 回に 1 つの要素だけを変える。

10. 留保事項

-
- ・ 公開から日が浅いため、Arena の順位、価格表示（4K の単価など）、トークン上限、前世代の停止日などは情報源によって食い違いがあり、今後変わる可能性がある。
 - ・ 主要な仕様は一次ソースで確認した（Nano Banana 2.1 のモデルページ・画像生成ドキュメント、OpenAI 公式ブログ・Service Terms）。GPT Image 2.5 の最大解像度と参照画像の枚数、Artificial Analysis の数値、商標制度小委員会の方針は主に二次ソースによる。

- ・生成速度について、第三者による信頼できる実測値は確認できなかった。秒数を掲げる記事は例示値と明記している^[23]。
- ・補償の範囲と除外条項の解釈には推論（ChatGPT Business が対象外であること、Nano Banana 2.1 が Google Cloud の補償対象に含まれること）を含む。導入前に各社の契約書の原文と、営業担当を通じた書面での確認が必要である。
- ・法的な評価（AI 生成物の著作物性・創作者性、意匠法改正の内容）は確定しておらず、本書は法的助言ではない。個別の案件は弁理士・弁護士に確認されたい。

参考文献

◆：本書作成時（2026 年 10 月 11 日）に該当する記述を再確認した資料 無印：調査段階で参照し、本書作成時には再確認していない資料（表題を URL 等から補ったものを含む） †：URL または原文が未検証の資料。閲覧日はいずれも 2026 年 10 月 11 日。

- [1] Google AI for Developers 「Gemini Nano Banana 2.1（モデルページ）」（2026 年 10 月 6 日最終更新）。
<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/models/gemini-nano-banana-2.1> ◆
- [2] Google DeepMind 「Nano Banana 2.1 Model Card」（2026 年 10 月 6 日）。
<https://deepmind.google/models/model-cards/nano-banana-2-1/>
- [3] パープル博士（note）「Introducing "Nano Banana 2.1"! High-Precision Image Editing That Transforms Advertising, E-commerce, and Document Creation」（2026 年 10 月 7 日）。
https://note.com/fastest_purple/n/n80b190f1b1af ◆
- [4] OpenAI 「Introducing ChatGPT Images 2.5」（2026 年 9 月 8 日）。<https://openai.com/index/introducing-chatgpt-images-2-5/> ◆
- [5] Atlas Cloud 「Nano Banana 2.1 vs GPT Image 2.5」。 <https://www.atlascloud.ai/blog/tips/nano-banana-2.1-vs-gpt-image-2.5> ◆
- [6] LLM Stats 「Nano Banana 2.1 launch」。 <https://llm-stats.com/blog/research/nano-banana-2-1-launch> ◆
- [7] fal.ai 「OpenAI GPT Image 2.5 Flare: Text to Image」。 <https://fal.ai/models/openai/gpt-image-2.5/flare/text-to-image>
- [8] OrcaRouter 「Nano Banana 2.1 vs GPT Image 2.5」（2026 年 10 月 6 日）。 <https://www.orcarouter.ai/blog/nano-banana-2-1-vs-gpt-image-2-5> ◆
- [9] OpenAI 「Service Terms」（2026 年 9 月 29 日更新）。 <https://openai.com/policies/service-terms/> ◆
- [10] Google Workspace 「Service Specific Terms (2024 年 2 月 21 日版)」。 <https://workspace.google.com/terms/service-terms-20240221/>
- [11] OpenAI 「API Changelog」。 <https://developers.openai.com/api/docs/changelog>
- [12] OpenAI 「Models: gpt-image-2.5-flare (API Docs)」。 <https://developers.openai.com/api/docs/models/gpt-image-2.5-flare>
- [13] OpenAI Developer Community 「Introducing GPT Images 2.5 in the API and ChatGPT（スレッド）」。
<https://community.openai.com/t/introducing-gpt-images-2-5-in-the-api-and-chatgpt/1395897/36>

- [14] OrcaRouter 「Nano Banana 2.1 in Google Flow」 。 <https://www.orcarouter.ai/blog/nano-banana-2-1-google-flow>
- [15] Kingy AI 「Nano Banana 2.1」 (2026 年 10 月 6 日公開・10 月 7 日更新) 。 <https://kingy.ai/blog/nano-banana-2-1/> ◆
- [16] TechCrunch 「Google launches Nano Banana 2 model with faster image generation」 (2026 年 2 月 26 日) 。 <https://techcrunch.com/2026/02/26/google-launches-nano-banana-2-model-with-faster-image-generation/>
- [17] DataCamp 「ChatGPT Images 2.5」 。 <https://www.datacamp.com/blog/chatgpt-images-2-5>
- [18] Google AI for Developers 「Image generation (Gemini API)」 。 <https://ai.google.dev/gemini-api/docs/image-generation> ◆
- [19] Notebookcheck 「Google Nano Banana 2.1: Improved image model for half the price」 。 <https://www.notebookcheck.net/Google-Nano-Banana-2-1-Improved-image-model-for-half-the-price.1418335.0.html>
- [20] OpenAI 「API Reference: Images – Edit」 。 <https://developers.openai.com/api/reference/go/resources/images/methods/edit>
- [21] APIPass 「GPT Image 2.5 Review」 。 <https://apipass.dev/blogs/gpt-image-2.5-review>
- [22] Google AI Developers Forum 「Gemini Nano Banana 2.1 input limit: the model card says 1M but generateContent rejects anything above 65,536 (スレッド)」 。 <https://discuss.ai.google.dev/t/gemini-nano-banana-2-1-input-limit-the-model-card-says-1m-but-generatecontent-rejects-anything-above-65-536/187225>
- [23] Tech Insider 「Nano Banana vs GPT Image API Benchmark 2026」 (2026 年 10 月 9 日) 。 <https://tech-insider.org/nano-banana-vs-gpt-image-api-benchmark-2026/> ◆
- [24] Artificial Analysis 「Text to Image Leaderboard」 。 † (調査段階で取得した数値。URL・数値とも本書作成時に未検証)
- [25] BudgetPixel 「Arena Leaderboard」 (2026 年 10 月 11 日時点) 。 <https://budgetpixel.com/arena/leaderboard>
- [26] TechAIWire 「Nano Banana 2.1: Gemini image model at half price」 。 <https://techaiwire.com/articles/nano-banana-2-1-gemini-image-model-half-price/>
- [27] Neowin 「Google launches Nano Banana 2.1 with better editing and subject consistency」 。 <https://www.neowin.net/news/google-launches-nano-banana-21-with-better-editing-and-subject-consistency/>
- [28] The Decoder 「Google's new image model Nano Banana 2.1 generates better images for less money」 。 <https://the-decoder.com/googles-new-image-model-nano-banana-2-1-generates-better-images-for-less-money/>
- [29] OpenAI 「Batch API (Guides)」 。 <https://developers.openai.com/api/docs/guides/batch>
- [30] OpenAI 「ChatGPT Images 2.5 System Card」 。 <https://deploymentsafety.openai.com/chatgpt-images-2-5>
- [31] Promptyze 「Nano Banana 2 stamps every image with SynthID and C2PA: here's what that actually means」 。 <https://promptyze.com/nano-banana-2-stamps-every-image-with-synthid-and-c2pa-heres-what-that-actually-means/>
- [32] Google 「Gemini API Additional Terms of Service」 。 <https://ai.google.dev/gemini-api/terms>
- [33] Terms.Law 「AI Output Rights: Gemini」 。 <https://terms.law/ai-output-rights/gemini/>
- [34] Terms.Law 「Navigating AI Platform Policies: Who Owns AI-Generated Content」 (2025 年 4 月 9 日) 。 <https://terms.law/2025/04/09/navigating-ai-platform-policies-who-owns-ai-generated-content/>
- [35] Google AI for Developers 「Zero data retention (Gemini API)」 。 <https://ai.google.dev/gemini-api/docs/zdr>
- [36] Fasthoff Law Firm 「AI Vendor Terms: Training Rights」 。 <https://fasthofflawfirm.com/blog/ai-vendor-terms-training-rights>
- [37] Google Cloud Blog 「Gemini support on Vertex AI」 。 <https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine->

[learning/gemini-support-on-vertex-ai](#)

- [38] Synthedia (Substack) 「Google Adds Broad Generative AI Indemnity」 。 <https://synthedia.substack.com/p/google-adds-broad-generative-ai-indemnity>
- [39] Whitebeard Strategies 「AI Indemnification Clause Check」 。 <https://whitebeardstrategies.com/general-help/ai-indemnification-clause-check/>
- [40] 文化審議会著作権分科会法制度小委員会「AI と著作権に関する考え方について」 (2024 年 3 月 15 日) 。 †
(URL は記載せず。原文は本書作成時に再確認していない)
- [41] Uravation 「生成 AI プリンシプル・コード解説 (表題は URL から補記)」 (2026 年 4 月 23 日公開・9 月 27 日更新) 。 <https://uravation.com/media/japan-ai-principle-code-guide/> ◆
- [42] Munck Wilson Mandala 「Supreme Court Denies Certiorari in Thaler v. Perlmutter: Human Authorship Still Required」 。 <https://www.munckwilson.com/news-insights/supreme-court-denies-certiorari-in-thaler-v-perlmutter-human-authorship-still-required/> ◆
- [43] CourtDocket 「Thaler v. Perlmutter: Only Humans Can Hold Copyright」 。 <https://courtdocket.org/thaler-v-perlmutter-only-humans-can-hold-copyright/>
- [44] 特許庁「意匠制度に関する検討課題について (産業構造審議会知的財産分科会 第 16 回意匠制度小委員会 配布資料)」 (令和 6 年 12 月 6 日) 。 https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/sangyo-kouzou/shousai/isho_shoi/document/16-shiryuu/03.pdf ◆
- [45] h.ogawa (note) 「AI 生成デザインの意匠権保護 | 2026 年法改正に向けた実務ポイント解説」 (2025 年 12 月 7 日) 。 https://note.com/nifty_pony727/n/n3528f4e3a8a9 ◆
- [46] 法律事務所 ZeLo 「2026 年の知財制度はどう変わる? 改正・制度変更のポイントと実務対応を解説」 (2026 年 4 月 8 日) 。 <https://zelojapan.com/lawsquare/65010> ◆
- [47] 弁護士法人ナラハ奈良法律事務所「AI の知財侵害を防ぐ 2026 年、意匠法改正も視野に (特許庁)」 (2024 年 11 月 7 日) 。 <https://kigyohoumu-naraha-law.jp/wp/?p=1220> ◆
- [48] 弁理士法人 ITOH 「特許庁「仮想空間上の物品画像」及び「生成 AI 技術の発達を踏まえた意匠の保護」について …… 第 20 回 産業構造審議会知的財産分科会意匠制度小委員会～」 (2025 年 7 月 1 日) 。
<https://www.itohpat.co.jp/ip/2648/> ◆
- [49] PatentRevenue (株式会社 IP リッチ) 「生成 AI と意匠特許: 創作プロセスの再構築と法的課題の包括的分析」 (2026 年 5 月 29 日) 。 <https://patent-revenue.iprich.jp/%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AE%B6%E5%90%91%E3%81%91/5265/> ◆
- [50] GVA 商標登録「生成 AI で作成した商標の取り扱いと注意点」 (2025 年 10 月 21 日公開・2026 年 8 月 4 日更新) 。 <https://tmlp.ai-con.lawyer/articles/jQ5EVjMr> ◆
- [51] 知的財産事務所エボリクス「2026 年版・知財トレンド総まとめ — 特許・商標・意匠の注目トピックス」 (2026 年 4 月 10 日) 。
<https://www.evorix.jp/blog/2026%E5%B9%B4-%E7%9F%A5%E8%B2%A1%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%83%89%E7%B7%8F%E3%81%BE%E3%81%A8%E3%82%81> ◆

その他の参照資料 (本文の特定の記述には対応させていない)

- ・ LLM Stats 「gpt-image-2.5-flare (モデル情報)」 。 <https://llm-stats.com/models/gpt-image-2.5-flare>
- ・ Atlas Cloud 「Nano Banana 2.1: What's New」 。 <https://www.atlascloud.ai/blog/tips/nano-banana-2.1-whats-new>
- ・ Tech Insider 「ChatGPT Images 2.5 / GPT Image 2.5 launch」 。 <https://tech-insider.org/chatgpt-images-2-5-gpt-image->

[2-5-launch-2026/](#)

- ・Morphic 「GPT Image 2.5 (モデル解説)」 。 <https://morphic.com/resources/models/gpt-image-2-5>
- ・Virse 「GPT Image 2.5 Pricing」 。 <https://www.virse.ai/blog/gpt-image-2-5-pricing>
- ・openPR 「GPT Image 2.5 Launches: OpenAI Introduces Flare and Sunburst」 。
<https://www.openpr.com/news/4629771/gpt-image-2-5-launches-openai-introduces-flare-and-sunburst>
- ・DataNorth 「Nano Banana: The Ultimate Guide to Google's Image Generation AI」 。 <https://datanorth.ai/blog/nano-banana-the-ultimate-guide-to-googles-image-generation-ai>
- ・CellCog 「Nano Banana 2.1」 。 <https://cellcog.ai/blog/nano-banana-2-1/>
- ・Movcl 「Nano Banana 2.1 (ガイド)」 。 <https://movcl.com/blog/guides/nano-banana-2-1/>
- ・日本経済新聞「記事 ID DGXZQOUA251LR0V20C25A4000000」 。
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA251LR0V20C25A4000000/> † (アクセス制限により本書作成時に本文を確認できず)